

授業形態	講義	科目名	スポーツの文化・歴史	必選区分	必修
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約90名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他（ ）				
どのような方法 を取り入れたか	<p>大人数、必修科目であり、またこれまでスポーツを競技（「する」こと）としてのみとらえてきたであろう受講生に対し、いかに主体性をもって積極的に受講する意欲・態度をもってもらうかに腐心してきた。</p> <p>①大人数のなかで個人を埋没させないために、初回時の初めにてB5白紙及び太ペンを配り、机上用の名札を作成、毎回、常に机上に置くように指示した。</p> <p>②パワーポイントの内容及び口頭での説明を最低限記せるように、毎回プリントを配布した。</p> <p>③毎回の復習（予習）を促す「独自学修ノート」の作成を指示した。毎回の講義を受けての感想や疑問点など、最低1ページの記入を課した。3～4回ごとに提出を受け、コメントを記入して返却した。</p>				
取り組みの効果	<p>①忘れ、紛失など、2回目以降の名札の掲出は少なくなった。再度作成させるか判断に迷った。理想は毎時90名すべてに発言する機会を設けることであるが、現実的にはむずかしい。</p> <p>②効果は両極端に表れた。口頭説明を事細かに記入するか、最低限度しか書かない（あるいはスマホでの撮影で済ませる）。スマホでの板書撮影を禁止するか迷ったが、撮影理由が異なるので一律的な禁止はむずかしいと考え、「著作権上の問題」についての説明にとどめた。</p> <p>③主体的な学習を促すことが出来た。</p>				
今後の課題	<p>※大人数のなかで、いかに個人を埋没させないかが大きな課題。そのための一つの方法として、全講義共通の「名札」があれば、より効果的であると考え。例えば、形状は異なるが議員の机上札のようなもの。これを教員の指示によって掲出するようにする。</p> <p>基礎的学力、あるいは学修に取り組む意欲が著しくことなるクラスにおいて、それぞれに対応した向上を求め、結果を得ることのむずかしさ。</p>				

授業形態	講義	科目名	スポーツ科学総論	必選区分	必修
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約100名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	毎回、前回の授業範囲から確認テストを実施し、それを成績に組み込んだ。				
取り組みの効果	毎回の課題に多くの受講生が根を上げて、ドロップアウトするもの、学習意欲を失うものが出てしまった。				
今後の課題	現在、15回の講義で2回だけ確認テストを行うようにしている。その準備で逆に校外学習の意欲を賦活できたように見受けられる。				

授業形態	講義	科目名	教職入門	必選区分	選択
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約150名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>「教員による一方的な講義形式の教育をやめて、学修者の能動的な参加を取り入れたグループワークとか、ディスカッションとか、プレゼンを推奨しよう」という言い方で呼びかけることになってしまうのです。つまり、アクティブ・ラーニングが講義形式と対比されるケースがよくあります。私は、「それはすこしちがうな」と思っています。先行的に授業に導入したアクティブ・ラーニングには、外見的には活動しているけれども、それに伴って頭が活動していないという事態が発生しました。騒々しく動いているけども、面倒な課題を早々に片付けようとする投げやりな姿勢が見え、それが片付くと一変して気が抜けたような状態になってしまうのです。「学習者がアクティブに動けばよく学ぶ」あるいは、「学習者を外側からアクティブにすることで頭の中もアクティブにしよう」という前提から出発すると上のような事態に陥る恐れがあります。学生は静かに座っているだけですが、頭の中はすごく活性化して授業の内容にコミットしている講義形式の授業もあるのです。そのした講義を前提にアクティブ・ラーニングの可能性を追求しています。</p>				
取組みの効果	<p>授業の到達目標の一つであるところの「今後とも教職課程を履修するかどうか、自分の進路を自分で決定する」ということについて一つの決断を求めている。講義が判断する機会にはなっている様子はうかがえています。ただし、その判断にはまだまだ深まりと現実性が足りていないととらえています。</p>				
今後の課題	<p>学びの対象世界、他者の世界、自己の世界を編み直すようなカリキュラムが必要だと思えます。授業で扱う内容づくり（あれもこれもと網羅することよりも、厳選して絞り込んだ深い内容）が準備されなければならないと思っています。ユニークなカリキュラムを可能にするためには時間や施設、人的要員といった大学として条件づくりが必要です。教員個人レベルにおける方法の工夫の議論では、アクティブ・ラーニングは本来の意義をなくしかねません。学生の予習・復習の時間が現実的に可能となるためにも学科のカリキュラム編成や学科の中のコース制も考えていかなければならないと思えます。</p>				

授業形態	講義	科目名	運動生理学 I	必選区分	選択
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約85名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	講義の進め方を一方向からではなく、対話的な講義に工夫し進めた。				
取り組みの効果	しかし、対話形式の講義を進めた結果、学生からの反応はほとんど無く、ただ下を向いてノートを取ったり視線を合わさずに講義を受けようとしている。				
今後の課題	講義を少人数制にすることが望ましい。				

授業形態	講義	科目名	スポーツトレーニングの科学Ⅰ	必選区分	選択
開講学科・学年	新健2年		受講者数	約140名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法 を取り入れたか	授業内でワークシートに、『相互コメント制』を導入した。ワークの内容について、自身の取り組みと他者の取り組みとを比較したり、自身の考えを深めたりするために行った。ワークシートに自身の意見や他に対する意見・考えを挙げた後に、「3人以上からコメントを受ける、3人以上にコメントをする」との条件を付けて作業をさせた。大人数の講義形式の授業であるが、教員と学生との双方向授業であることと、学生同士の双方向コミュニケーションの時間を取り、講義内容への関心を持たせることを目指した。				
取り組みの効果	例えば、トレーニングの「個性」や各自のトレーニング歴や経験による「トレーニング効果の違い」に注目した際には、生まれてからこれまでのスポーツ歴を事細かに振り返らせた。それに対する他者のコメントから、経験や環境の違いや知ることのなかった種目の世界に視野を広げることができた様子が伺えた。また、他者からコメントを受けるために、各自の取り組み方に積極性が見えた。				
今後の課題	友人同士での相互コメントになり、単なる感想であったり感情的なコメントが多く見受けられた。今後はより講義内容の理解を深めるために、コメントする際の注目ポイント等を提示し、より質の高い意見交換がワークシート上で行えるように工夫したい。				

授業形態	講義	科目名	コンディショニング論	必選区分	選択
開講学科・学年	新健2年		受講者数	約90名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	パワーポイントを使った講義のみから、時に教科書を学生に読ませる形式を取り入れた。				
取り組みの効果	パワーポイントを使ったのみの講義では、私語が多くなり学生が授業に集中していないのが明らかだった。時に教科書を無作為に学生に読ませる形式を取り入れると、次に読む順番があたるかもしれないという緊張感のためか騒がしかった授業が比較的静かになった。				
今後の課題	学生の集中力を維持するために学生に単に教科書を読ませるだけでなく、時に質問してして考えさせることも必要だと考える。				

授業形態	講義	科目名	スポーツ運動学	必選区分	選択
開講学科・学年	新健2年		受講者数	約100名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	授業開始時と終了時に起立して挨拶をする。カバンを机の上から降ろし、食べ物をかたずける。教科書とノートを準備する。授業の途中でのトイレはジェスチャー（Tの字を作る）で知らせる。MIC 忘れは授業後に紙に書いて提出する。遅刻は注意しない。				
取り組みの効果	気持ちの切り替えが出来て、受講態度が向上し、私語が無くなった。授業への導入がスムーズにできるようになった。トイレは恥ずかしいのでサインを出すことで、静かに行けるようになった。遅刻者を注意するたびに授業が中断していたので、それを止めたことで、ストレスが減った。				
今後の課題	より積極的な参加を促し、自ら授業に参加する態度を養う必要がある。私語は減ったが、発言の機会をさらに作ることや、学生が参加していける仕掛けをつくる必要がある。				

授業形態	講義	科目名	スポーツ運動学	必選区分	選択
開講学科・学年	新健2年		受講者数	約100名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>教員による実演パフォーマンスを増やした。学生が問いかけに動きで参加できるような仕掛けを幾つか置いて、実際に動く中で理解する方法を取り入れた。</p>				
取り組みの効果	<p>興味を示し、積極的に参加する機会が増えて、授業が活性化した。</p>				
今後の課題	<p>個人の動きや試行なので、グループで動くものも考えたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	教育課程総論	必選区分	選択
開講学科・学年	新健2年		受講者数	約80名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
<input type="checkbox"/> その他 ()					
どのような方法を 取り入れたか	<p>本授業は、カリキュラム論に関する教育思想の変遷をたどりながら、今日の教育課程編成の課題を考え、教職についたときに自主的編成をおこなう理論的な根拠を獲得させたいというねらいをもってすすめている。</p> <p>多くの教育学者や教育実践者のカリキュラム論を紹介することも重要だろうが、自主的に学修することが何より大事であり、そうした観点から、基本となるテキストを選び、各自が対話しながら自主学習を進められたらと考えた。時間的な制約もあり、ここ数年、J. デューイ『学校と社会』が分量や章立てが適当と考え、採用している。</p> <p>8回をテキスト講読にあて、各章ごとに10名ほどの報告者を決め、各章の要点を報告するのではなく、1)自分が同感だと思った記述とその理由、2)今まで受けてきた教育との比較検討、3)教師になって授業を構成するときに重要としたいことなどを発表させている。報告のレジュメは提出させ、評価の対象とした。</p> <p>報告には30分程度を要するが、報告者に対して教員から質問し、全体の課題とすべきことの確認、おおまかな評価をおこない、後半の授業でできるだけ課題となったことを取り上げて講義した。</p>				
取組みの効果	<p>学生達が「一度読んだだけでは分からない」と感想で述べているように、けっしてやさしい内容ではない。1章を読み通すのに2時間ほど必要となる。報告者は4～5時間かけて、報告に臨んでいると思う。章全体は読みこめなくても、自分の興味や関心のある部分について、観点到って報告できていた。</p> <p>それぞれの報告の視点が異なるため、デューイの主張を幅広く捉え、また自分が受けた教育と関連づけて具体的に報告されるため、より深く考える材料となっていると思う。教員もまた、学生たちが広く、深く読み込んでいることに感心もした。</p>				
今後の課題	<p>学生が発表しているときに、しっかり聞いている者も多いが、ときには平気で私語をして、中断して注意をうながす場面もあった。将来、教員をめざそうとする者として、他者から学ぶということに、もっと謙虚で誠実になってほしいと願う。グループ内で司会を決め、報告一質疑一全体への紹介をしてもらった年もあったが、教室の固定机ではむずかしく、議論をすすめることが十分できなかった。</p> <p>報告の章だけはしっかり読み込んでいることは間違いないが、それ以外の時はいかがなものかと思う。毎回短いレポートなどで確認すればいいのだろうが、学生の負担も考えながら工夫していきたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	スポーツ指導論	必選区分	選択
開講学科・学年	新健3年		受講者数	約80名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<input type="checkbox"/> 授業時に使用するパワーポイント資料は Get Folder に pdf ファイルとして配布 →授業時に印刷して配布しない →必要であれば各自が印刷して持参するように指示 <input type="checkbox"/> 授業中はパワーポイントをあえて使用しない →学生は必要であればパワーポイント資料を手元に準備している <input type="checkbox"/> パワーポイントにある内容を説明しながら、あえて板書で補足や強調点を解説 <input type="checkbox"/> 受講生が行っている競技種目の具体例をできるだけ多く使う				
取組みの効果	<input type="checkbox"/> 授業資料が事前に配布されているので事前学習の機会になる <input type="checkbox"/> 「パワーポイントを写す」時間等は一切設ける必要がない <input type="checkbox"/> 「パワーポイントを一方的に説明する」講義から「語りかけたり聞いたりする」 双方向型の授業に変わった <input type="checkbox"/> 授業中にパワーポイントの内容を「写す」ことに精一杯になる学生が減る <input type="checkbox"/> 「聴き」ながら「見」ながら「ノートをとる」能力を開発できる				
今後の課題	<p>パワーポイントを使って講義をするようになり10年以上になるが、「パワーポイント を写すこと」＝「ノートをとること」と考えている学生が非常に多く、教員の「語り」 の中からエッセンスを聞き取り、それをメモしたり、図式化したりするといった 本来の意味でのノートの取り方ができる学生が本当に減ったと感じている。</p> <p>この傾向は、「教員が授業資料作りを頑張る」ことでより一層加速するという性質 をもったものであると感じるようになり、この手法を始めた。</p> <p>今後は、学生相互のディスカッションをノートにつけさせ、それを書画カメラで発表 させたりする方法も良いのではないかと考えている。</p>				

授業形態	講義	科目名	発達発達・老化論	必選区分	選択
開講学科・学年	新健3年		受講者数	約90名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>保健体育教師や運動指導者が子どもを対象にスポーツや運動指導を行う際には、子どもの発達・発達状態を良く理解した上で適切な指導に当たる必要があります。発達発達・老化論の授業では双方向の場面を作る目的もあり、子どものからだの発達や運動技能の発達などに関連する図表を高頻度で提示して学生に考えさせるようにしています。以前は担当しているクラスと番号を適当に告げて答えさせていましたが、休んでいる学生がいたり毎回何回か空振りがありました。ところで、私の授業は大人数なので、授業の出欠はMICカードで行っています。授業が終盤のある時、担当クラスの成績を入力するための履修者名簿を作成し、手元に持っていました。いつものように、学生に質問を投げかける際にたまたま履修者名簿があったので、クラスと氏名で指名をして色々なやり取りをしました。その時、学生は意外と積極的な態度で受け答えしていました。この時から、学生はやはり氏名で呼ぶと反応が違うのかなと考えるようになり、それ以降、全ての授業で学生に質問を投げかける際は氏名を呼ぶようにしています。</p>				
取り組みの効果	<p>全ての学生ではありませんが、質問時に氏名で呼ぶと反応は比較的良好です。発問の仕方によっては、次に自分が当たるのではないかと若干の緊張感もあります。この取り組みによって、「氏名を呼んで学生とやり取りをする」ことの重要性を感じました。ちなみに、質問をした学生にはチェックをし、より多くの学生に質問を投げかけるようにしています。</p>				
今後の課題	<p>学生が授業の予習をどのようにすれば積極的に行うかが今後の課題です。予習ができていない者とできていない者をどう評価すべきかを考える必要があります。</p>				

授業形態	講義	科目名	教育行政学	必選区分	選択
開講学科・学年	新健3年		受講者数	約 160 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法 を取り入れたか	<p>時間外学習を促すとりくみとして、課題図書を2冊あげてルーズリーフ一枚程度の感想をそれぞれかくこととした。1冊目は「ドキュメント 高校中退」[女子高生の裏社会]のうち一冊。この科目は教員免許取得に関係のある科目である。中学・高校(特に高校)教諭になる場合、自分の卒業した高校とはまったく違ったタイプの高校に配属されることが珍しくない。日本の教育行政は「高校の多様化」路線で動いているなか、なおさらその傾向は強くなる。2冊目は「学校と暴力・いじめ・体罰の本質」[体罰はなぜなくなるしないのか]のうち1冊。両者ともに近年マスコミでも問題になっている「体罰」をとりあげたもの。体罰は学校教育法11条で明文で禁じられているが、いまだに問題視されつづけている。いままで、中学・高校で体育系部活動をしてきた学生が多く、将来もし教師になれば体育系部活の顧問になる可能性が高い学生にとって、体罰問題を考えるきっかけを提供した。なお、指定した本はいずれも新書であり、安価である。また、課題発表から提出締切までの時間は長くとり、授業中に「自分の家の近くの公立図書館に早い目に閲覧希望をだして手に入れること」と授業中にアナウンスもし、学生に経済的負担をできるだけかけないようにも工夫をこころがけた。</p>				
取り組みの効果	<p>1冊目に関しては、いずれを選んだ学生も「自分の知らない世界であった」「おどろいた」といった感想がよせられた。「高校中退」に関して、本学学生の多くは、中退者が多く出る高校を経験しているとは考えにくく、また「高校中退者の多くで学校に対する偏見をもっていた」という感想も多かった。「女子高生の裏社会」を選んだ学生は「こういう世界をしらなかった」という感想が多かった。高校生がそのような問題に直面する際に対処しなければならないのは女性教員と思われることから、有益であったと考える。2冊目に関しても自分の経験(中学・高校で体罰をうけた経験を書いてきた学生もいた)とこれから自分がどうすべきかについて学生に考えさせることができた。</p>				
今後の課題	<p>読書を通して、自分の直接知らない世界について考えさせること、あるいは身近な問題であってもより深く考えさせることはある程度できたのではないかとと思われる。今後の課題として、授業終了後も読書をつづけるようにするための工夫をすることを考えなければならないということを意識している。</p>				

授業形態	演習	科目名	英語	必選区分	必修
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約20名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>①テキストに付属している音声CDをiPADに取り込み、講義の時に語学学習用アプリで学生に聞かせている。このアプリは再生速度を遅くしても音程が変化しないので、聞き取れない箇所があった時に再生速度を落として聞かせることができる。</p> <p>②座席を全て指定席にしている。</p> <p>③毎回、辞書を持ってこさせ、こちらが提示した単語を一番早く引き当てた学生に加点をしている。</p>				
取り組みの効果	<p>①再生速度を落とすと、聞き取れる場合もある。</p> <p>②座席指定をしたことにより、私語は殆ど無い。</p> <p>③学生同士の競争心が芽生え、授業にメリハリがついた。</p>				
今後の課題	<p>①学生自身にもCDの音声をスマートフォンや携帯音楽プレーヤーに取り込んでヒアリングの練習をするように指導しているが、あまり実行されていない。結局は学生が「やる気」を持たないことには、何の意味も無い。</p> <p>③授業中に辞書を引こうとする学生はいつも決まっており、そうでない学生のモチベーションをどのようにして引き上げるかが課題である。</p>				

授業形態	演習	科目名	初期演習	必選区分	必修
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約45名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を取り入れたか	<p>「初期演習」の目的は、初年次学生が学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学科の教育目標を達成するように導くことである。</p> <p>女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける為、後期ではプレゼンテーション能力を向上させることを目的・目標にする。</p> <p>前期終了までに後期授業の内容を説明する。</p> <p>夏休み中に資料作成（発表原稿）し、9月提出（全員に印刷配布）。</p> <p>後期個人発表（1人5分） 「健康」「スポーツ」について調査し、発表する。</p>				
取組みの効果	<p>他の人がどのような事に関心があるかを知ることが出来て良かったと好評であった。</p> <p>1人で発表することにより、レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができた。</p> <p>プレゼンテーション能力向上につながった。</p>				
今後の課題	個人発表後のディスカッションを充実させる必要がある。				

授業形態	演習	科目名	卒業研究	必選区分	必修
開講学科・学年	新健4年		受講者数	約15名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>高齢者を中心とした地域住民への支援活動を運動教室として実践指導を実施。本授業は3年次にフィットネス部門の専門資格取得のための学習をする傍ら、「からだ」「運動」「健康」をキーワードに加齢に伴う身体の変化や現在のフィットネス事情などを研究・レポート化し、相互に発表し相互理解をしてきた。4年時にはその知識のもと、高齢者が必要とする健康のための運動の提案を「週1回の運動教室として」ゼミの授業時間中に実施。この教室開講期間中、前・後の体力測定を含む一連の支援活動は事前に決定している各グループの担当者が毎時間の1時間の授業を担当。さらに振り返りには、アンケートや体力測定の結果報告などで講義形式あるいは参加者一人一人に健康ノートを返却してきた。このように3年次で学んだ基礎学をもとにその実践活動としてプログラムの起案から運動の実施指導、さらに参加者へのフォローまでを授業としてきた。また、一年間の集大成の成果物はテキストやDVDを作成したり、研究発表には各グループが取り組んできた高齢者や運動教室に関連するデータでの分析なども実施し論文として発表をしてきた。</p>				
取組みの効果	<p>地域高齢者にとって、大学の中での学生たちとの授業を通しての交流は、学内での学生の状況がよく見えるようになり学生と一緒に活動することで生きがいの高揚につながっているのはアンケート結果で読み取れる。このような活動については息の長い支援を要望されている。また、学生にとっての高齢者との世代間交流は、将来この専門分野を生かした職業に就きたいものにとってインターンシップの経験となり、より現実味を帯びる授業となる。その為、4年のこの時期に就職が決定した者は、この実践授業を前向きに捉え実施することになる。</p>				
今後の課題	<p>本実践をはじめて4・5年すでに経過しているが、実施場所・時間帯に制限がある為、同一グループへの支援活動にとどまっている。また、授業を実施するための事前に必要なテキスト作りや用具の準備、振り返りのアンケートさらには地域の人たちとの意見調整などは学生ばかりか教師も同様に倍以上の負担となることから、学生の指導力不足や準備不足の折は受講される高齢者に迷惑や負担をかけることもしばしばある。地域の方は温かく受け入れてくださっているが、指導時間の不足から招く失敗は今後どのように穴埋めをしていくかが鍵になる。</p>				

授業形態	演習	科目名	保健体育科指導法Ⅱ	必選区分	選択
開講学科・学年	新健2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>模擬授業は従来から、「模擬授業の対象者が教職をめざす大学生だからうまくいくが、本当に中学生でうまくいくのか」という声が学生から少なからず上がっていた。そこで、教育実習先を訪問するたびに撮りためた授業風景のビデオ（体育10件、保健8件）を、導入、場の設定、師範の仕方、教材の工夫、グループ学習の工夫、板書の工夫、子どもの反応などにカテゴライズして場面を区切って見せ、中学生を対象とした授業のリアルな姿を実感できるようにした。希望者には、一つの授業を通して見る機会を設けた。</p>				
取り組みの効果	<p>模擬授業には模擬授業の意義があるが、やはり限界がある。その限界を埋める取り組みとして非常に参考になったようだ。（学生アンケート）教育実習や教員採用試験に向けてのモチベーション向上に役立ったと考える。</p>				
今後の課題	<p>こちらから選んで実施してもらおうわけにはいかないが、より多様な種目、地域、学年を対象とした授業のビデオをさらにアーカイブし、必要に応じて使用できる映像データベースをつくりたい。</p>				

授業形態	演習	科目名	保健体育科指導法Ⅳ	必選区分	選択
開講学科・学年	新健2年		受講者数	約30名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>保健体育科指導法Ⅳは陸上競技の授業実践を行っている。1クラス30人程度で4クラス実施している。初回から3回目までの授業では、指導計画の方法論や陸上競技の特性を学び、実際にグラウンドにてシミュレーションを行う等の準備授業を行っている。4回目から14回目までは、各回4人が授業実践担当となり、各自の計画した指導案に基づき授業を行っている。</p> <p>授業実践を前半18分と後半18分（各2人同時進行）の2クール実施するが、各回終了後、生徒役となった受講生は『良かった点・改善すべき点』についてペーパーに記入する。その後、指導担当をした学生から自身の振り返りを述べさせ、グループディスカッションを行う。各授業実践時に、テーマや内容に合わせて、受講生として持つべき観点を伝えておき、ディスカッションでの意見を引き出す取り組みをしている。</p>				
取り組みの効果	<p>指導実践に対して意見する際に、学生同士だと短所に視点が集まり、批判的になりがちである。そこで、良かった点と改善すべき点との両面から意見を出せるように心構えをさせ、予め観点を絞ることによって、ポジティブなディスカッションが展開できた。</p>				
今後の課題	<p>授業回が進むほど、ディスカッション時間に発言する者が限定されてくる傾向にある。発言力のある者の意見だけが注目されるため、その他のペーパー上に現れている意見を全体に発信できる工夫が必要であると考えている。また、発言機会の与え方も検討したい。</p>				

授業形態	演習	科目名	教育実習 I	必選区分	選択
開講学科・学年	新健2年		受講者数	約70名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> その他（教育実習におけるスキルアップのための取組）				
どのような方法を 取り入れたか	<p>教育実習時の指導案作成や模擬授業について、作成方法、作成例やよくない指導案の例を挙げた上で、</p> <p>① 教材を決めて指導案を各自作成する。</p> <p>② グループ(1グループ7～8名で9グループ)内で2人1組のペアを作り、お互いの指導案を見て相互に評価しあう。</p> <p>③ 次回の講義で訂正した指導案をもとにグループ内で10分程度の模擬授業を実施して評価しあう。</p> <p>④ これを後半の4回の講義を使って、体育実技、保健、道徳について行う。</p>				
取り組みの効果	<p>実習先では講義のように仲間がいないことを承知していることから、とりあえず指導案は全員が作成し、その中身を相互評価する中で改善し、模擬授業で授業実践をすることで実際に授業を行う事の難しさを体験させることができた。</p> <p>ただ、学生の指導案を評価する力の問題や、9グループが一斉に一つの教室で行わなければならない状況から、授業をする学生と聞く学生の集中力の問題、指導者としての私がすべてにコメントできない状況が起こってしまった。</p>				
今後の課題	<p>15回の前半から教育実習に取り組むことの必要性や、1講座の90分の使い方として、指導案作成とそれ以外に伝えなければならないことをバランスよく配分することの必要性を考慮して、今年度の講座構成の課題としたい。</p>				

授業形態	演習	科目名	アスレティックトレーニングⅢ	必選区分	選択
開講学科・学年	新健4年		受講者数	約10名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	ブレインストーミングのような展開をしている。競技種目特性、特定のスポーツ外傷の受傷機転について、グループワークを行ったのち発表する。その後、各グループの考えをひとつにまとめる作業を行わせている。私の役割はファシリテーターをしている。				
取り組みの効果	時間外学習の時間、発言する機会は増えている。授業を重ねていくにつれ、まとめ方が上手くなっていくとともに、扱う競技種目により、学生の役割に変化が見られる。				
今後の課題	トレーニング実技についても議論しながら進められるようにしたい。				

授業形態	実験	科目名	スポーツ心理学実験	必選区分	選択
開講学科・学年	新健3年		受講者数	約20名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法 を取り入れたか	<p>設定（プレッシャー条件の設定において如何に平常心で運動パフォーマンスが発揮できるか）パフォーマンス遂行時（両手供応動作…右手は横へ、左手は上下に動くハンドルを回して∞の図柄を描かせる。この時、図柄は2重線になっており、その内側を鉛筆で外にはみ出ないように時間制限を設けて辿らせる。遂行時には「あせる」「集中できない」状況を設定する。例として、周囲から野次をとばす（何してるの、遅いよ、早く早く、へたくそ、又はみでた等）、更に時間内に完了しない場合は頭上にある風船が割れるようにして実験を行う。正確さとスピードを要求される内容ではあるが、性格によってパフォーマンスの遂行に差がみられる。</p>				
取組みの効果	<p>最初は冷静に対処できる学生は少なく、パニック状態になるが徐々にセルフコントロールの方法を被験者が会得していく。セルフコントロールは各自異なり、自分なりの対応策を実施し、平常心で臨めるようになり、正確さやスピードアップが向上していくため、実際のスポーツ場面で活用できるとしている。これはメンタルトレーニングの基礎であるリラクゼーション技法の習得に繋がっている。</p>				
今後の課題	<p>学生は大いに楽しみながら実験するが、遊びやゲーム感覚だけに陥らないようにすることが大切である。そのため、他のリラクゼーション法も体験させて効果の有無を検証したり、他のメンバーの実験結果について比較検討を行わせ、コーチングにも活用できることを理解させることである。また、実験は小筋群の活動であるため、フィールドでの大筋群の活動も並行して実験することが必要である。</p>				

授業形態	実習	科目名	レクリエーション指導法実習	必選区分	選択
開講学科・学年	新健4年		受講者数	約80名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法 を取り入れたか	<p>授業参加学生を12グループに分け、各グループが指導者として1時間を担当する形式を採用した。指導者には、異なった種目のニュースポーツを担当させ、自分たち以外の参加学生たちに対して、一講習会あるいは一大会を企画・運営するよう課題を与えた。加えて、指導担当日までに担当種目に関する歴史、ねらい、効果、ルール、用具等に関する事柄について調べさせ、A4版4枚のレポートにまとめさせた。12種目が終了するときには、3年次の授業分プラス教員の見本分を加えて17種目分の小冊子が出来上がるように設定した。同時に指導案を提出させ、種目指導に際しての注意点について事前に議論する場を設けることとした。特に、一講習会・一大会を成功させるという点よりも、いかに怪我なく楽しみながら講習会・大会の本流につながるができるのかを重視するよう指示した。これらのことをすることによって、指導担当学生のみにとどまらない授業参加学生全員のレスポンスビリティの向上を狙った。</p>				
取り組みの効果	<p>担当教員が授業進行するときよりも、仲間の進行の方がより協力的であり、積極的であると感じられる局面が多々あらわれた。お互いが指導し合う形式は、苦労や工夫する部分を共有することにとっても役立つものと感じられた。意欲・関心を高め、理解しようとする態度も高まり、結果、学習態度も飛躍的に向上したと考えられる。</p>				
今後の課題	<p>授業担当した種目以外の事前学習度については、実施度が非常に低い。いかに指導担当以外の学生の事前学習を促すかが課題と言える。90分という限られた授業時間中に各自の予習部分を確認することは難しい。また、学習の定着度についても確認が難しい。これらについては単にレポート等にたよるのではなく、参加学生全員の確認ができる方法をいかに創造するかが課題であろう。</p>				

授業形態	実技	科目名	ダンスⅠ	必選区分	必修
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他（ ）			
どのような方法を 取り入れたか	<p>①手をつなぐことなど、からだに触れる機会を積極的につくる。②学期の中間に理解度を確認する小テストの実施をしている。その際に、学生たちが親しみをもって口ずさめるような音楽を選曲している。このテストは技能の度合いをみるものではなく、授業での学びが身体で理解できているかを確認していくために行っている。内容は「現代のリズムのダンス」の基礎的なステップやリズムを取り入れ、年度ごとに学生の状態をみながら担当者が創作している。</p>				
取組みの効果	<p>①西洋のフォークダンスでは手をつないで踊ることが多く、日本の文化ではあまりない。あえて授業の初めに全員が大きな円で手を取り合ってリズムをとることを毎回行っている。そうすると、苦手な学生も自然にリズムに乗ってくる。大きな円というのが、ダンスの本質である心身の躍動を目覚めさせるのに役立っているように思う。</p> <p>②こちらの予想を超えて、「テスト」という言葉にポジティブに反応していると感じる。必修の授業なので、学生のダンス経験も様々であり、得手不得手ははっきりしているが、「小テスト」を行うことで学生同士の学び合いを自然に誘発している。「人前でテストされるなんて」と思っている学生が、「終わったあとにはもう一度やりたい、楽しかった」という感想を述べる。大半の学生が、この小テストでダンスに対する苦手意識を克服しているようだ。</p>				
今後の課題	<p>実技の中でダンスに関わる基礎知識を同時に伝えることを求められているが、専門性を高める授業を90分×15回の枠の中でどれだけ可能にしていけるかが課題である。</p>				

授業形態	実技	科目名	トラックアンドフィールド	必選区分	選択必修
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他（ ）				
どのような方法を取り入れたか	トラックアンドフィールド（陸上競技）の実技見本に、学生を一切使わず、すべて担当教員でパフォーマンスを示したこと。				
取り組みの効果	教育実習に行った際、苦手な実技種目でも上手な生徒の手を借りず実習生自身で見本を示し、自身の背中をみせることで付いてくる生徒の数が大幅に増えたこと、学習意欲が一気に高まったことなどの報告を多数受けた。				
今後の課題	陸上競技は自身の記録を高めたり、相手と記録を比較していくことも醍醐味の一つと考えられる。そのため、指導者も見本となるフォームだけでなく記録をしっかり示すことも重要な科目といえる。引退まで学生には絶対に負けない体力と気力を保つため、自己研鑽を続けていくことが課題である。				

授業形態	実技	科目名	スイミング	必選区分	選択必修
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>スイミングの授業では初回の授業で泳力テストを実施し、泳力別に指導を行っている。授業の進め方は、泳力の低い者と高い者に分かれ、泳力の低い者には基礎の呼吸やストリーム姿勢を行い、プル・キック・コンビネーションへと展開していく。指導する種目順は、クロール→平泳ぎ→背泳ぎ→バタフライである。特に平泳ぎでは、足首を曲げて引きつける動作が出来ず平泳ぎに時間がかかり、背泳ぎやバタフライに時間がかげられずそれぞれの種目が1コマになってしまう。それでも健康・スポーツの学生対象であるため泳ぎの習得は早い。今回は、時間がかかる平泳ぎで良い泳ぎのイメージを持たせるために、平泳ぎが出来ない学生に対して、泳ぎを練習する前に必ず水泳部の学生に模範泳法を実施してもらい足首を曲げるイメージ、手と足の引きつけるタイミングのイメージを持たせながら授業を実践した。</p>				
取り組みの効果	<p>平泳ぎの足首を曲げるイメージについては、少し難しいところもあったが、手と足のタイミングについては、イメージから実践へと繋がったようで習得率が高かった。</p>				
今後の課題	<p>平泳ぎの良いイメージを持たせることも重要であるが、個人の泳ぎをVTRで撮り自己分析し修正できる能力を身につけさせることが必要である。</p>				

授業形態	実技	科目名	バレーボール	必選区分	選択必修
開講学科・学年	新健1年（2015年度入学生より2年）		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> その他（技術習得）				
どのような方法を 取り入れたか	<p>授業を担当した時から、「バレーボールのゲームレベルを引き上げる」「引き上げるだけの技術を獲得させる」がテーマであった。それが、教職課程の「教科に関する科目」としての色合いが強くなってから、指導者養成を意識するように展開を変化させてきた。当初から、「ボールを数多く触らせる」「ゲームを多く体験させる」に着目し、指導者養成を意識する以前は、前半3回で基礎技術から応用技術を練習させ、残りゲーム中心の展開を行った。それは、それなりに成果があったが、スキルテスト、特に「スパイク」「フロッターサーブ」の初期段階での合格者がクラスの7割程度と低調であった。また、ゲームレベルも、高校授業レベルよりも高いが、ラリーが続くといえるレベルには程遠かった。そこで、前半3回を、まず前半5回に延長し、その中で、「数多くボールを打たせ、それをレシーブさせる」こと、そして、実際のクラブ活動の現場に立っても困らない「最低限の技術指導を取り組んだグループワーク」を取り入れることとした。具体例としては、1対3のレシーブ練習（バレーボールの練習では、3人レシーブと呼ぶ）を実施し、コーチ役とレシーブ役の両方を経験させた。</p>				
取組みの効果	<p>「ボールを数多く打つこと」により、スイング動作、ヒット動作がスムーズになり、しいては、それをレシーブさせることによる「レシーブ技術向上」にもつながった。また、1対3のレシーブ練習により、ボールを打つ「コーチ役」を経験することにより、ボールコントロール、つなぎのプレー、指示や盛り上げる声などに波及し、バレーボールを全般的に組み立てる能力を高めていることにつながっている。また、受講生は、組み込まれた練習内容を、楽しく、積極的に取り組もうとしている。</p>				
今後の課題	<p>卒業後尼崎の中学校に勤め、専門種目と全く違うバレーボールのクラブ指導を行った卒業生が実際に、非常に困っている状況が根底にあり、在学中にそのきっかけづくりをしておく必要があったことが、今回の考えの土台になっている。今後の課題としては、フォーメーション的な動きを取り込むことが課題である。かといって、ゲームで出来なければ取り入れる意味がない。「体育授業レベル」から「クラブ指導初級レベル」まで、高める工夫を行っていきたい。</p>				

授業形態	実技	科目名	柔道	必選区分	選択必修
開講学科・学年	新健1年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	障がい者武道（柔道）の研究に参加しており、そこで得た方法を参考にオリジナルを加え、柔道の技術の理解度を上げる工夫を実施した。				
取り組みの効果	以前までの授業よりも、理解度は向上したように感じている。				
今後の課題	全ての技術に対応できるように、全ての技術に対する指導法を考える。				

授業形態	講義	科目名	スポーツ心理学	必選区分	選択
開講学科・学年	短健1年		受講者数	約100名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>「予習レポート」 概要：教科書を使用して、次回の授業内容を事前にまとめる課題を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業終了時、次回の内容と教科書のページを指示する。様式は、A4縦1枚、手書き、形式自由（イラストも可、色づけも可）とする。提出は任意とする。 2. 毎授業開始前に、レポートを提出させる。 3. 提出したら、レポート点を追加する。 4. 学生の提出したレポートの中から優秀なものを使って、それを見せながら授業開始時に前回の復習などを行った。 				
取り組みの効果	授業アンケートでは、予習レポートが授業の理解に役立ったとの感想がいくつかあった。				
今後の課題	どのタイミングでレポートを返却するのが良いのか明らかにすること。				

授業形態	演習	科目名	初期演習	必選区分	必修
開講学科・学年	短健1年		受講者数	約45名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法 を取り入れたか	<p>「初期演習」の目的は、初年次学生が学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学科の教育目標を達成するように導くことである。</p> <p>女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける為、後期ではプレゼンテーション能力を向上させることを目的・目標にする。</p> <p>前期終了までに後期授業の内容を説明する。</p> <p>夏休み中に資料作成（発表原稿）し、9月提出（全員に印刷配布）。</p> <p>後期個人発表（1人5分）</p> <p>「健康」「スポーツ」について調査し、発表する。</p>				
取り組みの効果	<p>他の人がどのような事に関心があるかを知ることが出来て良かったと好評であった。</p> <p>1人で発表することにより、レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができた。</p> <p>プレゼンテーション能力向上につながった。</p>				
今後の課題	個人発表後のディスカッションを充実させる必要がある。				

授業形態	実技	科目名	スイミング	必選区分	選択必修
開講学科・学年	短健1年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	水泳は出来る、出来ない、不得意、得意がはっきり分かれるスポーツ種目である。そこで各授業の後半に、出来る学生と出来ない学生を少人数グループ学習を設定し、互いに指導する学ぶ時間を与えた。				
取り組みの効果	小グループ設定により学生の授業への取り組みが向上した。				
今後の課題	小グループの固定化が向上の促進となるか、グループを変化させることが効果を一層高めるのか実践課題と考える。				

授業形態	実技	科目名	バレーボール	必選区分	選択必修
開講学科・学年	短健1年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他（技術習得）			
どのような方法を 取り入れたか	<p>授業を担当した時から、「バレーボールのゲームレベルを引き上げる」「引き上げるだけの技術を獲得させる」がテーマであった。それが、教職課程の「教科に関する科目」としての色合いが強くなってから、指導者養成を意識するように展開を変化させてきた。当初から、「ボールを数多く触らせる」「ゲームを多く体験させる」に着目し、指導者養成を意識する以前は、前半3回で基礎技術から応用技術を練習させ、残りゲーム中心の展開を行った。それは、それなりに成果があったが、スキルテスト、特に「スパイク」「フロッターサーブ」の初期段階での合格者がクラスの7割程度と低調であった。また、ゲームレベルも、高校授業レベルよりも高いが、ラリーが続くといえるレベルには程遠かった。そこで、前半3回を、まず前半5回に延長し、その中で、「数多くボールを打たせ、それをレシーブさせる」こと、そして、実際のクラブ活動の現場に立っても困らない「最低限の技術指導を取り組んだグループワーク」を取り入れることとした。具体例としては、1対3のレシーブ練習（バレーボールの練習では、3人レシーブと呼ぶ）を実施し、コーチ役とレシーブ役の両方を経験させた。</p>				
取組みの効果	<p>「ボールを数多く打つこと」により、スイング動作、ヒット動作がスムーズになり、しいては、それをレシーブさせることによる「レシーブ技術向上」にもつながった。また、1対3のレシーブ練習により、ボールを打つ「コーチ役」を経験することにより、ボールコントロール、つなぎのプレー、指示や盛り上げる声などに波及し、バレーボールを全般的に組み立てる能力を高めていることにつながっている。また、受講生は、組み込まれた練習内容を、楽しく、積極的に取り組もうとしている。</p>				
今後の課題	<p>卒業後尼崎の中学校に勤め、専門種目と全く違うバレーボールのクラブ指導を行った卒業生が実際に、非常に困っている状況が根底にあり、在学中にそのきっかけづくりをしておく必要があったことが、今回の考えの土台になっている。今後の課題としては、フォーメーション的な動きを取り込むことが課題である。かといって、ゲームで出来なければ取り入れる意味がない。「体育授業レベル」から「クラブ指導初級レベル」まで、高める工夫を行っていきたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	生涯スポーツ論 (前任校科目)	必選区分	—
開講学科・学年	—		受講者数	約 50 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>授業内容について学生が考える時間を多くもつようなアクティブ・ラーニングを採用している。たとえばパワーポイントを中心に授業を進めているが、その際にパワーポイントで提示した図に対して最低限の情報のみを先ずは伝え、その後その図が何を意味しているのかを1分程度で学生各自に考えさせ、簡単なメモを書かせる。その後近くに座っている知人と自分の考えを言い合い、相談させる時間を1分設けるようにし、その後私がその図の解説をするという取り組みを行っている。私が話す前にペアで相談し出てきた答えをマイクを渡して簡単に発表させることも実施した。また、あるスライドは全て英語で記述し、何が書かれているかを上記の流れと同様に各自→ペアで考え、話し合うといった方法を設けた。</p>				
取り組みの効果	<p>授業の最後に提出するミニレポートにおいてその日の授業の感想を書かせているが、上記のやり方で自分で考えて、他者との相談も含めて内容を理解するという取り組みによって記憶の定着が大きいためか、このやり方で学んだ内容を記載する学生が多い感がある。また授業内において会話をしている時間を必然的に設けるため、眠気の防止に繋がることや、話す時間と聴く時間のメリハリもつくようになる。</p>				
今後の課題	<p>共通教育のような大人数かつ周囲に知人が少ないような授業においては同様なアクティブ・ラーニングを実施することが難しいように思う。また学生にとって全く分からないスライドでは、何を意味しているのかを考えることも難しく、話し合いといっても何を話しているのか分からないようなこともあったため、各自で考えて、話し合いのできる程度に、適度なヒントを与える大切さも感じた。</p>				